

	公表	事業所における自己評価結果
--	----	---------------

事業所名	運動療育支援教室ほおずき				公表日	2025年 2月10日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		遊び、活動などそれぞれのスペースを決めている。空間としては、集団活動が行えるよう死角の無い空間になっている。	必要に応じたスペースの確保はしている。落ち着くための空間も設けており、今後も現状維持していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		人員配置基準を守り、さらに加配要件を満たす人員を配置している。	定員に応じた職員配置をしており、今後も維持、継続していく。送迎職員の検討。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		完全バリアフリー空間であり、視覚認識できるよう構造化も図っている。	目で見て認識できるように工夫しているが、より良いものにできるよう努めていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		掃除や消毒などは日々行っている。空気清浄機の常時稼働と共に、窓を開ける等の換気、室温調整も随時行っている。	衛生対策は日々徹底し、心地良く過ごす事ができる様、空間の工夫をしていきます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	気持ちの切替え等が必要な場合に別室などで対応できるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	毎月の職員会議や朝夕のミーティングなどで共有を図っている。	今後も風通し良く意見交換ができるよう努めていきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	評価表などの意見を受け、検討し改善に繋げるよう努めている。	評価表に限らず、様々な意見等を把握する機会を設けていきます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		職員とは会議や面談を通して改善に取り組めるよう努めている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2	第三者評価による外部評価はないが、広く外部からの訪問は受入れており、オープンな事業所を心掛けている。定期的に法人内チェックを行い法令順守、業務改善に努めている。	適切な運営に努めるとともに、定期的な実施を検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		法人主催の研修、事業所内での法定研修、外部研修参加なども行っている。	今後も様々な研修の機会に参加できるよう努めていきます。	
適切な支援の提...	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		年間計画にて支援プログラムを作成。子どもたちが楽しんで取組めるように職員で話し合っている。	随時更新も行いながら、より良いものを作っていきます。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3	2	保護者との情報共有、相談支援員からの情報などを参考にしながら日々の支援を踏まえて計画作成を行っている。	ニーズ把握など不十分な所もある為、方法なども変えながら対応に努めていきたい。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		作成の際には多職種が意見を出し合い、確認しながら検討をしている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		計画を職員共有で作成しており、共有できている。	支援内容なども都度確認行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	保護者からだけでなく職員それぞれの関わり方などから意見を貰い、状況の把握に努めている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	1	ガイドラインに基づいた支援内容を踏まえながら計画に反映し作成している。	ガイドラインに基づいて、より良いものにしていけるよう努めていきます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		ミーティングなどで意見を出し合いながらプログラム立案を行っている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		年間の計画に合わせ職員で意見を出し合いながら内容を決めている。	活動内容のバリエーションを増やしていけるよう努めます。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		基本集団活動の中ではあるが、状況に応じ個別活動に切替える等の支援を行っている。	個々の状況を把握しながら都度切替え等をしていけるように努めます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		事前に決めている役割分担をミーティング時に再度確認し、必要に応じ協力体制を作る等準備している。	今後も継続していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	記録に残す事と共に、できるだけその日のうちに共有を図る機会を設けている。	今後も継続していきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	記録を取っており、いつでも確認できるようになっている。	今後も継続していきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		モニタリングは必ず行い、見直しを行っている。	今後も継続していきます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	1	ガイドラインに沿って支援プログラムの中に取り入れ支援に繋げている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		活動の中で自己選択自己決定する場面などを設けながら支援をしている。	様々な自己選択、自己決定の場を提供していけるよう努めていきます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児童発達支援管理責任者が主となり他職種から情報を収集した上で参加している。	今後も継続していきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	3	医療関係との直接的な連携はないが、保護者を通して確認等取ってもらうようになっている。障害福祉、教育等の関係機関とは連携が図れるようにしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	1	保護者を通して学校との情報共有を行っている。	必ずしも全保護者が同じように情報共有ができていないわけではないが、今後の連絡調整の実施方法などは検討必要。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	3	保護者を通して行っている。	できる範囲での情報共有であるため、今後の実施方法などは検討必要。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	2	必要に応じ、行える態勢は整えている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	3	発達検査の結果などは保護者を通して共有を図ってもらえるように依頼している。	必要に応じ担当者会議の場への参画なども依頼し、広く情報共有や助言等が行っていけるよう努めていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5	現在は主として行っていない。	今後行うことも念頭に置き検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		5	協議会がある事は知っているが参加はできていない。	今後機会があれば参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時や連絡帳にてやり取りを行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4	個々での依頼があった際には対応はしている。	今後必要に応じ実施していけるよう努めていく。
保護者へ	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1	契約時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2	1	契約時には面談などで意見を伺い作成し、作成後半年以内にモニタリング実施し意見などを伺いながら更新している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3	1	保護者に説明し、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		連絡帳や電話、必要に応じ面談などを行えるようにしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5	参観日の機会はあるが、保護者同士やきょうだい支援などは行っていない。	今後必要が生じれば検討していく。

の 説 明 等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情受付の窓口に関しては契約時に説明し、玄関にも掲示している。申し入れがあった場合には迅速に、かつ適切に対応できる体制の整備も行っている。	
	42	定期的な通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		必要に応じてホームページや公式LINEなどにて情報発信は行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報関係の書類は鍵付き棚に保管している。情報等が必要な際には、個人が特定できないようにするなどの配慮している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		保護者との意思疎通などのやり取りはしている。伝達、共有の難しい場合には目で見て分かるものを活用している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	こちらから地域行事へ出向く事はあっても、招待する様な行事は行っていない。	
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各マニュアルは策定している。職員は研修を行い周知している。保護者も目にする事ができるように設置しているが、周知徹底にまで至っていない。各想定訓練は定期的に行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		BCPは策定している。職員に研修で周知している。安全計画にも基づいて定期的な訓練を行っている。	見直しなども行いながら、今後も継続していきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		アセスメントの際に確認するとともに、必要に応じて保護者から依頼があれば確認を行っている。	研修内でてんかん等の対応を理解していけるようしていく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	1	2	契約時に保護者に確認し、把握を行っている。必要に応じたアレルギーに対する配慮、対応を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画は作成している。その計画に基づいての研修や指導なども行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全計画は玄関に設置している。	お知らせも、誰でも見れるようにはしているが、周知に関しては不足している。より分かりやすい周知方法を検討していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1	ヒヤリハットの事例があった際は、報告書に記録すると共に、共有、検討する機会を設けている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		定期的な研修を実施している。	今後も継続していきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	1	現状、拘束が必要な状況にはないが、職員には拘束に対する研修を行っている。委員会も設置しており、必要な場合には委員会に議題をあげ、検討を行えるようにしている。	今後も身体拘束を行わないように工夫を行い継続していきます。	